

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 錦		
所在地	山口県岩国市錦町広瀬758番地		
電話番号	0827-72-3301	事業所番号	3577200896
法人名	社会福祉法人 錦福祉会		

訪問調査日	平成 20 年 9 月 22 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人 非常勤 3 人 (常勤換算 8 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート式平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,500 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
その他の費用	月額	10,500 円		
	内訳	光熱水費 10,500円		

### (4) 利用者の概要 ( 8 月 25 日現在 )

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 91 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 岩国市立錦中央病院、いしい記念病院 歯科 なし
-------------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

介護老人福祉施設や介護老人保健施設等、施設群の一角に位置していますが、各施設間の支え合いや連携が深く、緊急時の支援体制や見守り、敬老会等行事への相互参加等、利用者の生活の中での拡充とサービスの安心へ繋がっています。活動性の高い利用者が多く散歩や食事づくり、畑作りや収穫等の作業を行い、認知症介護への理解が深い介護者と共に穏やかに普通の生活をしておられます。法人は地域の法人として信頼され、介護保険や認知症の講演依頼があり、介護相談も行なわれています。

### (特徴的な取組等)

家庭菜園では利用者と共に季節の野菜、すいかやとうもろこしまで栽培し、自家生産、自家消費を行なっています。田植えや稲刈りを小学校で行ない、茶摘みを高等学校で行なう等、地域の学校とふれあい、ふれあい祭り等の地域行事に参加し、地域の中のホームとして地域から支えられています。業務日誌や連絡帳が充実しており、利用者の変化や異常の早期発見、情報共有の手段として有効に活用されています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

毎月開催される職員会議で話し合い、改善に取り組みられました。アセスメントや介護計画もきちんと作成され、避難訓練や緊急時の対応についてもマニュアルを作成し、必要な訓練や研修がされています。第三者委員については引き続き検討中です。

### (今回の自己評価の取組状況)

事前に各職員に自己評価書を配布し、個々に評価を行い記載され、それを管理者がまとめるという形で自己評価を行い、職員会議で最終的な共通理解を行ないました。

### (運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、消防団、地域包括支援センター、家族(2名)、苑長、管理者が出席して2ヶ月に1回、月末の水曜日に開催し、情報交換が行われています。

### (家族との連携状況)

あらかじめ様式を定め、毎月、家族に健康、介護、日常の暮らし、介護計画等を写真添えて報告しています。面会時にも、その時々の様子を伝えたり、緊急時には電話等で報告し、連携を深めています。

### (地域との連携状況)

グループホームを運営する法人が地域から認められた法人となっており、講演依頼や介護相談も依頼されています。田植えや稲刈り、茶摘み、運動会等地域の小、中、高校生との交流や地域行事への参加もしており、利用者への地域の方の面会も行なわれています。3ヶ月に一回、地域向け法人便りを法人が発行し、グループホームや認知症へ対する情報提供を行なっています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ご家庭や地域とのふれあいを大切にします」という文言はあるが、地域密着型サービスとしての理念の見直しには至っていない。	・地域密着型サービスとしての理念の見直し
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内や事務所等、常に目につく所に掲示し確認し合っている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入していないが、地域のふれあい祭りや地域の行事、小学校での田植えや稲刈り、運動会、高校生との茶摘みなど機会があれば地域へ出かけて交流をしている。3ヶ月に一回地域向け広報誌を法人が発行している。	
じちかい			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員共に評価の意義について理解しており、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会長、民生委員、消防団、地域包括支援センター、家族、管理者、苑長が参加して2ヵ月に一回開催し、情報交換をしている。ホームの利用者も参加し法人で実施する盆踊り大会へ、消防団からの支援もある。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市主催の会議に出席し、地域包括支援センターと連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	様式を定め、身体状況、介護状況、日々の暮らしの様子、介護計画に対するモニタリング等を記入し、写真を添えて毎月報告しており、面会時や緊急時においてもその都度報告をしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情対応マニュアルを作成し、苦情相談窓口も明記しているが、第三者委員の選任はしていない。法人独自のオンブズマン制度があり、毎月、オンブズマンに任命された人が利用者の元を訪れ、意見や希望を聞いている。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者のペースやホームの行事に応じて柔軟に対応している。事前に職員の希望を聞いて勤務調整を行い、緊急の場合は話し合いによって職員間の交代が行なわれている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内での異動は極力行なわないようにしており、やむをえない異動や退職については、利用者や家族との馴染みの関係を維持できるよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修も行なわれており、外部の研修参加も推奨している。研修参加者は研修内容を回覧や職員会議で報告し、職員全員で内容を共有している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、地域で行なわれる研修会にも参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ホームの見学や居室の紹介、ホーム側の事前の家庭訪問等で顔馴染みの関係をつくり、スムーズな利用に繋がるように配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>掃除、調理、野菜作りなどを一緒に行ないながら利用者から学び、日々を共に暮らしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>共に暮らすことで、日々の日常会話やしぐさから利用者の思いや意向、暮らし方の希望を把握している。困難な場合には本人本位に対応している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>MDS - RAPを用いてアセスメントが行われており、本人や家族、職員の意見や希望を基に毎月一回開催される職員会議で話し合われている。業務日誌や連絡帳の有効活用により、課題とケアのあり方について随時の見直しも行われている。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>1ヶ月ごとにモニタリングを行ない、3ヶ月ごとに見直しをしている。状態に変化があった場合はその都度見直しを行っている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院受診の送迎や付き添い、お花見や紅葉狩などの外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望に応じ、かかりつけ医や事業所の協力医等で適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	これまでに終末期対応の事例はない。入居時に説明を行ない、重症化した場合は本人、家族、主治医とその都度、連携をとりながら対応する。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人内で接遇の研修が行なわれ、職員会議においてもプライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて話し合われ、個人の尊厳を傷つけるような言葉かけはしていない。記録や個人情報の取り扱いにも気をつけている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時々状態に応じて、一人ひとりの希望に合わせ支援を行っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食共にホーム内で調理し、畑で作った野菜を使って一緒に調理し、盛り付け、片付けをしている。職員と利用者は一緒に同じものを食べ、和やかな食事時間である。散歩で拾った栗を利用者が皮剥きして、夕食の栗ご飯の為に準備をされていた。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日午後3時～6時迄行なわれており、本人の希望に添った支援をしている。入浴を嫌がる利用者には清拭なども行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑仕事、散歩、料理、縫い物、掃除、洗濯たたみ等、一人ひとりが活躍できる場面づくりをしている。読書や新聞を読んでいる場面も見られた。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりのその日の希望により、散歩や買い物、菜園での収穫等行い、戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員は拘束について正しく理解しており、拘束は行なわれていない。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	死角になる所に出口があるため、時間や職員の配置状況により施錠する事もあるが、それ以外の時間は施錠はしていない。基本的には施錠しない方針である。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、職員全員で一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成すると共に、救急講習会を行ない職員全員が対応できるようにしている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルに基づき、法人と連携をしながら年二回夜間を想定した避難訓練を行っており、運営推進会議などでも話し合いが持たれている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人ファイルに薬の目的、副作用、用法、用量について記載した説明書を添付し、把握をしている。誤薬を防ぐ為に服薬時には職員2人で確認している。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合わせたケアをし、口腔内の状態の把握に努めている。歯ブラシや義歯の清掃や消毒、保管の支援をしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の記録に食事量、水分量を記入し把握をしている。法人の栄養士から献立について助言を受け、適切な食の提供に配慮している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗いの励行、トイレ等のドアノブや手すりの塩素消毒、手指消毒器の設置など感染防止に向け日々取り組んでいる。インフルエンザの予防接種は全員実施し、冬期は次亜塩素酸入りの加湿器を使い感染防止に役立てている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ソファーや畳の場所があり、新聞を読んだり、会話を楽めるようになっており、季節の花が玄関、洗面台等に飾られている。台所はアイランド型の調理台を配置し、調理や後片付けに参加しやすい工夫をしている。眺望にも優れ、居室からは町の自然や町並み、菜園が見渡せ、開放的であり気分転換にも良い効果がある。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテン以外は自宅で使っていた家具やベット、布団が持ち込まれ、利用者一人ひとりに合った居室作りがおこなわれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム錦
所在地	山口県岩国市錦町広瀬758
電話番号	(0827) 72 - 3301
開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日

## 【サービスの特徴】

利用者一人一人の能力に応じた援助、出来る事はやっていただき、出来ない事への援助。  
家庭的雰囲気の中で生活していただく。

## 【実施ユニットの概要】 ( 8 月 1 日現在 )

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 91 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員が連座になって議論する事が出来ず、評価表を常勤職員に渡して、個人の考え方を反映させながら評価を行った。
評価確定日	平成 20 年 8 月 25 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	昨年度に引き続き、法人の理念の上にホーム独自の地域との関係を大切に現状にあった理念を掲げている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム、廊下や事務室内の常に目につく所に、掲示し取り組んでいる。	
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	日常的に伝えるなど明確にしている。	
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	月1回の職員会議の中での検討や、管理者と職員間では連絡帳を利用して指示や報告を受け、質の向上に向け努力している。	
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の皆様には広報誌「錦福社会だより」やホームページで紹介、掲載している。また、地域の敬老会などに福祉職員が参加し、ホームについて紹介を行う等理解していただけるよう努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	近所の方との挨拶は出来ているが、気軽に立ち寄っていただけのまでに至っていない。	
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	高校でのお茶摘み、小学校との田植え、稲刈り、地元のジャガイモ掘りなどの誘いを受け、参加し交流している。	他の地域活動等にも、1人でも積極的に参加出来るようにしたい。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	家族会及び地域の皆さんを対象に、認知症(精神科)の専門医を招き、講演会を行う等、地域の高齢者の暮らしの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議において、評価の意義、考え方などは説明しているが要改善項目すべてについての具体的な改善は不十分である。	年間を通じて、全職員が評価項目について意識し、振り返りや見直しを行い、具体的な改善に努める。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	参加者は、自治会長、民生委員、消防団、市包括支援センター、家族、職員で、2ヶ月に1回開催し、活動状況等の報告を行い、情報交換をしているが、サービスの向上に繋げるに至っていない。	サービス評価の結果を公表し、改善課題などを話し合い、サービスに生かすよう努める。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市主催の会議には、積極的に参加し、包括支援センターとも連絡をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	制度については、職員会議において、説明を行っている。今のところ当ホームにおいては、制度活用の対象者はいない。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議の中で虐待防止の研修を行い、適切なサービスが提供出来るよう検討、防止に努めている。また、新任職員入職時には、必ず研修を行っている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、十分に説明し理解を図っている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の利用者本人の行動や言動から好き、嫌いなどの意向を探るよう努めている。また月1回錦福祉会福祉サービス委員の訪問の機会を設け、外部に声を表せる機会を作っている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回、利用者の現状報告を送付している。家族が面会に来られた際も随時、状況報告を行っている。金銭管理は行っていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。		
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保 するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による 支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限 に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメ ージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めて いる。		
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流す る機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	課題分析、職員間との検討をもとに作成している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	作成している。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実践している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体施設と連携をとりながら行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	母体施設と連携をとりながら、交流を図っている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティア等などの受け入れは、積極的に行っている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人や家族の意向に応じ、出張型の理美容サービスを利用出来るようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		検討する。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		職員会議の中で話し合い、周知徹底している。
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		出来るだけ支援している。
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		出来る事は、やっていただいているが、現状では全員が出来ているとは思われない。
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		利用者本位で取り組んでいる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		利用者の希望に沿って、実施している。
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		利用者の出来る範囲で準備等をし、見守りなどを実施している。
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		体調、健康等に配慮しながら、実施している。
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		タイミングを見て声かけを行いながら、気持ちよく排泄出来るように支援を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、入浴出来るようにしており、入浴拒否の場合でも清拭を行い清潔に努めている。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個々に合わせたリズムを作り、眠れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理、畑仕事、散歩、縫い物など個々に応じて、いろいろと活躍出来る場面づくりをしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人持ちのお金は当事業所としては、支援していない。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望にそって、散歩に出かけている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	初詣や花見、紅葉狩りと外出支援はしている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族、利用者の希望により、電話でのやり取りの支援はしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問出来るように、面会時間の制限などしていない。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望あれば、対応可。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	誕生会、盆踊り大会、敬老会等に参加の呼びかけをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	研修参加や職員会議に於いて勉強会を行い、確認、徹底している。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠の弊害は全職員理解しているが、安全面に於いて職員の手薄の時間帯、やむを得ず施錠する事もある。		
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在や人数確認、見守りを徹底している。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	実施している。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実施している。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急講習会を行い、職員全員が対応出来るようにしている。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット報告書を作成し、確認し再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルに基づき、母体施設と連携を図りながら訓練等を実施している。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについては、ホームの工夫や取り組みについて家族に説明し、抑圧感のない暮らしの支援をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	記録を活用し、体調の変化、異変の発見に努めており、速やかな対応で受診している。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬ファイルを保管し確認している。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	適度な運動や乳製品、繊維質の多い食材を使用し、自然に排便を促している。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人々に口腔清潔支援を行っている。 週2回のポリデントの実施、歯ブラシ等の保管も対応している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を作成し、食事量、水分摂取量を記入、管理している。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	うがい、手洗いの励行、インフルエンザ予防接種の実施、感染症の流行に対応している。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮で安全な食材を使用し、1日で使い切る様努力している。又衛生管理チェック表を作成記入、予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<u>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	安心して出入り出来るように、工夫されている。	
91 (36)	<u>居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	四季に応じた飾りつけや草花を生ける事により、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
92	<u>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室と食堂なので、1人で過ごしたい方は、居室に戻られ過ごされている。	
93 (37)	<u>居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具、寝具等を持ち込んでもらっている。	
94	<u>換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は常に行い、湿度計を設置し温度調節に配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	安全な環境づくりがされている。	
96	<u>わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	安全な環境づくりがされている。	
97	<u>建物の外周りや空間の活用</u> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	車の通行があり、見守りが必要で活用されていない。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	<input type="radio"/> 家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが ほとんどできていない